

Ⅱ期区間工事実施中!!



仮称土屋橋と仮称下金山橋の整備状況(令和8年3月撮影)

北千葉道路とは

一般国道464号北千葉道路は、常磐道と東関東道のほぼ中間に位置し、平成30年6月2日に開通した外環道（千葉県区間）から千葉ニュータウンを経て、成田空港までを最短で結ぶ延長約43kmの幹線道路です。

北千葉道路の整備は、「成田空港第2の開港プロジェクト」を支えるとともに、国際競争力の強化を高め、沿線地域の慢性的な交通混雑の緩和や首都圏の災害時における緊急輸送道路として機能するなど、様々な効果が期待されます。

北千葉道路(印西～成田間)の整備状況

北千葉道路（印西～成田間）約13.5kmのうち、印西市若萩から成田市押畑までのⅠ期区間約9.8kmが平成17年度に、残る成田市押畑から大山までのⅡ期区間約3.7kmが平成19年度に、それぞれ事業着手しました。

Ⅰ期区間については、現在、県と国が分担しながら事業を行っており、起点部となる印西市若萩から成田市北須賀までの約4.2kmを県施行区間として、続く、成田市北須賀から押畑までの約5.6kmを国施行区間としてそれぞれ整備を進めています。

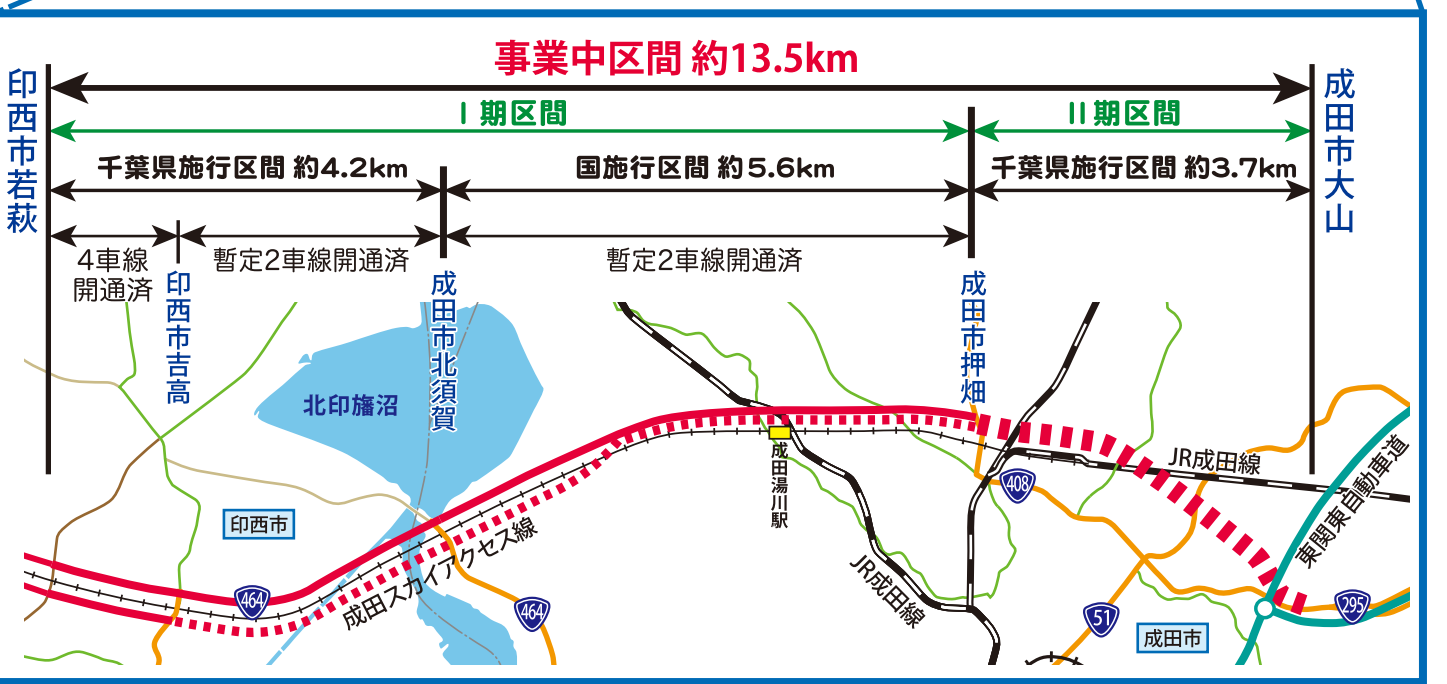
県施行区間については、平成29年2月19日に、国施行区間についても平成31年3月3日に暫定2車線で開通しています。

Ⅱ期区間については、全線を県施工区間として、早期開通を目指し、工事を実施しています。現在は橋梁工事や道路改良工事を進めているところです。

北千葉道路(印西～成田間)の計画概要

事業名：一般国道464号北千葉道路(印西市～成田市)
起点：印西市(旧印旛郡印旛村)若萩地先
終点：成田市大山地先
延長：約13.5km
道路規格：第3種第1級(設計速度80km/h)
車線数：4車線
主な交差道路：一般国道464号、408号、51号など

北千葉道路の概要



ますます高まる!北千葉道路の整備効果

その1. 広域道路ネットワークの強化・物流効率化の支援
～地域活性化の実現～

その2. 交通処理能力の向上・成田市街地の交通円滑化

その3. 救急医療・防災機能の強化

周辺道路の交通円滑化

一般国道408号は、主要渋滞箇所4箇所が連担しており、特に土屋交差点では交通混雑が顕著となっています。今後、Ⅱ期区間の整備により、広域交通と生活交通が分離し、交通の円滑化が期待されます。

また、この交通混雑を一因とした追突事故の減少も期待されています。

北千葉道路整備後の成田市街地の交通量・混雑度



防災機能の強化

緊急輸送道路1次路線となっている国道464号北千葉道路の整備により、下総航空基地などの広域防災拠点や千葉北総病院などの第3次救急医療施設が結ばれ、災害時における物資の輸送・救急医療活動の支援などが期待されます。

更に、北千葉道路が位置する成田・印西地域は、広域支援ゾーンに指定され、成田空港が県外からの支援の受け皿となり、道路ネットワークを利用して広域に要支援地域を支える役割を担うことから、北千葉道路が果たす支援機能に注目されます。

北千葉道路周辺の広域防災拠点・救命救急センター

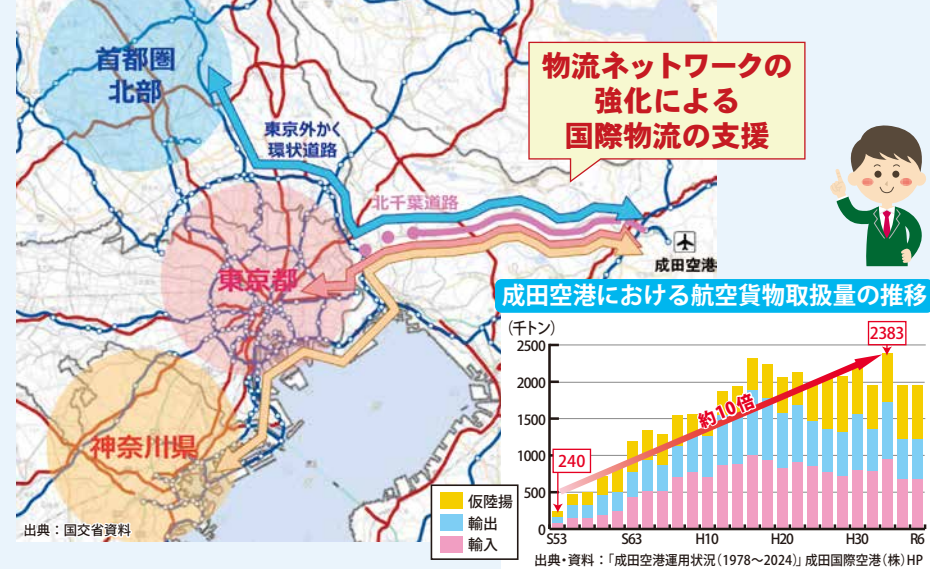


物流効率化の支援

国際拠点空港である成田空港の貨物取扱量は増加傾向にあります。成田空港では2028年度末を目標に機能強化を進めており、今後の交通需要の増加が見込まれています。

北千葉道路の全線整備により国際物流ネットワークを構築し、首都圏の国際競争力が強化されることが期待されます。

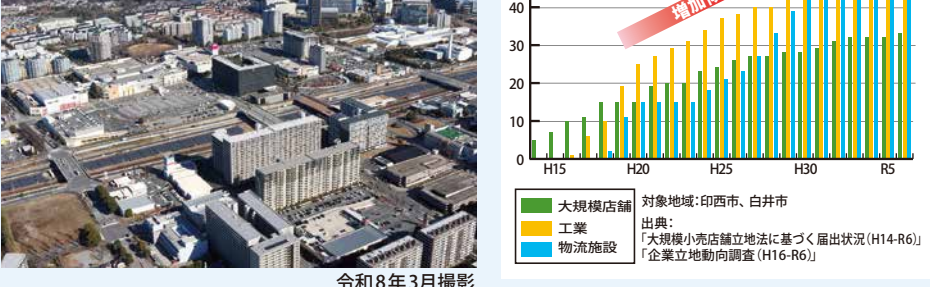
北千葉道路と東京外かく環状道路の連携による物流ルートの形成



北千葉道路周辺の主な企業立地状況



千葉ニュータウン中央駅周辺(大規模商業施設が立地)



印西市泉野周辺(大規模商業・物流施設が立地)



印西牧の原駅周辺(大規模商業施設が立地)

